

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
教育原理 Principles of Education		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	必修	(保育士養成課程必修・教職課程必修(幼稚園教諭二種))	こどもフィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
教職関連科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
教職関連科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
松崎勇人	本館2階	月曜・水曜・金曜の講義のない時間		授業中に指示します
授業の概要				
①教育の意味、②教育の歴史、③教育思想、④教育の社会的要因、教育経営、教育の目的、教育制度、⑤教育と児童福祉との関連性を内容の柱として、教師になるために必要な最も基本的な事柄について大まかな理解を得させる。				
授業の目標				
①教育することの中心的意味や子ども観が述べられるようにする。 ②教育に関する歴史の大きな流れが述べられようようにする。 ③教育に関する思想(首尾一貫した考え方)のおおよそが述べられるようにする。 ④教育の社会的要因、教育経営、教育に関する目的と制度の基本が述べられるようにする。 ⑤教育と児童福祉との大まかな関連性が述べられるようにする。				
授業の方法				
黒板を使っての説明を中心とした講義を行う。なるべく著作の現物や思想家の写真等を見せながら、イメージをわきやすくするようにする。また、4人から5人の小集団を作り、教育に関するテーマについて討論して発表することを行う。講義者が、それらの学生の見解を尊重しながら、幅広い観点からそれを補い、深める。				
学習の成果(学習成果)				
(1) 教育の意味や子どもの見方を説明することができる。 (2) 教育の歴史や教育することに関する対照的な、異なった考え方の長所と短所を述べるすることができる。 (3) 教育を左右する社会的要因、教育経営の基本的考え方、日本の教育の目的と教育制度の骨格、教育制度と福祉制度との関係を説明することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス			
第2回目	教育とは何か。東洋と西洋の教育の語源。			
第3回目	教育に関する歴史(日本の古代から中世)			
第4回目	教育に関する歴史(日本の近世から近代)			
第5回目	古代の教育思想(ソクラテス)			
第6回目	古代の教育思想(プラトンとアリストテレス)			

第7回目	中世の教育	
第8回目	近代の教育思想概観とその背景	
第9回目	教育学の始まり（コメニウス等）	
第10回目	ロックとルソーの思想と社会的背景	
第11回目	ペスタロッチとヘルバルトの思想と社会的背景	
第12回目	デューイの思想と社会的背景	
第13回目	教育の目的（一般的理解）	
第14回目	教育の目的（民主的社会的教育目的、日本の教育目的）	
第15回目	日本の教育制度とその社会的背景およびその経営に関わること、教育と児童福祉の制度	
事前・事後学習	講義のポイントを復習すること、宿題をすること。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	最高水準としては、講義者の話を集中して聞き、質問に的確に答えられること、与えられたテーマについて仲間の意見を聞き、自分の考えを述べられるなどである。
レポート		
調査報告書		
小テスト		
試験	80%	到達目標に示した内容に関する基本的事項を述べられるかどうかをペーパーテストにより尋ねる。ノートの持ち込みは出来ない。評価基準の詳細は講義中に説明する。
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
教科書：特になし。参考書は講義内で指示する。		
履修上の留意点・ルール		
休まないこと。真剣な態度で講義に臨むこと。私語をしない。積極的に質問すること。		

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
教育原理 Principles of Education		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(英語教論・栄養教論必修)	英語と栄養の教職課程履修者のみ受講できる
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
教職関連科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
教職関連科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
松崎勇人	本館2階	月曜・水曜・金曜の講義のない時間		授業中に指示します
授業の概要				
①教育の意味、②教育の歴史、③教育思想、④教育の社会的要因、教育経営、教育の目的、教育制度を内容の柱として、教師になるために必要な最も基本的な事柄について大まかな理解を得させる。				
授業の目標				
①教育することの中心的意味や子ども観が述べられるようにする。 ②教育に関する歴史の大きな流れが述べられるようにする。 ③教育に関する思想(首尾一貫した考え方)のおおよそが述べられるようにする。 ④教育の社会的要因、教育経営、教育に関する目的と制度の基本が述べられるようにする。				
授業の方法				
黒板を使っての説明を中心とした講義を行う。なるべく著作の現物や思想家の写真等を見せながら、イメージをわきやすくするようにする。また、4人から5人の小集団を作り、教育に関するテーマについて討論して発表することを行う。講義者が、それらの学生の見解を尊重しながら、幅広い観点からそれを補い、深める。				
学習の成果(学習成果)				
(1) 教育の意味や子どもの見方を説明することができる。 (2) 教育の歴史や教育することに関する対照的な、異なった考え方の長所と短所を述べることができる。 (3) 教育を左右する社会的要因、教育経営の基本的考え方、日本の教育の目的と教育制度の骨格を説明することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス			
第2回目	教育とは何か。東洋と西洋の教育の語源。			
第3回目	教育に関する歴史(日本)			
第4回目	教育に関する歴史(日本)			
第5回目	古代の教育思想(ソクラテス)			
第6回目	古代の教育思想(プラトンとアリストテレス)			

第7回目	中世の教育	
第8回目	近代の教育思想概観とその背景	
第9回目	教育学の始まり（コメニウス等）	
第10回目	ロックとルソーの思想と社会的背景	
第11回目	ペスタロッチとヘルバルトの思想と社会的背景	
第12回目	デューイの思想と社会的背景	
第13回目	教育の目的（一般的理解）	
第14回目	教育の目的（民主的社会の教育目的、日本の教育目的）	
第15回目	日本の教育制度とその社会的背景およびその経営に関わること	
事前・事後学習	講義のポイントを復習すること、宿題をすること。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	最高水準としては、講義者の話を集中して聞き、質問に的確に答えられること、与えられたテーマについて仲間の意見を聞き、自分の考えを述べられるなどである。
レポート		
調査報告書		
小テスト		
試験	80%	到達目標に示した内容に関する基本的事項を理解できたかどうかをペーパーテストにより尋ねる。ノートの持ち込みは出来ない。評価基準の詳細は講義中に説明する。
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
教科書：特になし。参考書は講義内で指示する。		
履修上の留意点・ルール		
休まないこと。真剣な態度で講義に臨むこと。私語をしない。積極的に質問すること。免許取得科目のため教育に対する強い興味や関心がある者のみ受講を許可したい。		